

## 第五十二回東京都小学校道徳教育研究会期総会にて

さて、昨年（平成二十四年）十二月二十六日、文部科学大臣に提出された「道徳教育の充実に関する懇談会」の報告書の内容についてであります。

かねてより私がこの懇談会報告書で一番に注目していたことは、「道徳の教科化によって現行の道徳教育の基本的な考え方や道徳の時間の特質が変わるのか？」ということでした。

このことについて報告書は、「（現行の道徳教育の）考え方は、今後とも重要であり、引き続き維持していくことが適当である。」と結論付けました。正直「ホッとした」というのが本音でした。

道徳の教科化について、とかく評価や教科書、教員免許状などのことに注目や関心が集まっていますが、これらは制度上・技術上の問題ですので、困難な課題ではありますが、関係各機関の英知を集めれば何とかなることだろうと私は思います。

しかし、報告書で現行の道徳教育の考え方は今後とも引き続き維持していくことが適当であると結論付けられたとはいえ、その前提となる道徳の時間の実践そのものが、長い間、多くの学校で軽んじられてきた経緯を思いますと、今後の「特別の教科 道徳」の行方が心配です。

### 〈報告書の内容で気になる点 1〉

内面的資質としての道徳的実践力が強調されるあまり、道徳教育における実践的な行動力等の育成が軽視されがちな面がある。(p7)

東京都では平成十二年度以来、毎年「道徳授業地区公開講座」を実施し、家庭・地域などに道徳授業を公開しています。今はかなり改善されてきましたが、この事業が始まった当初には、公開された授業に多くの混乱が見られたものでした。

例えば「児童生徒に道徳的価値を押し付け、道徳的行為の決意表明を迫る授業」「車いすやアイマスクの体験、公園の清掃などの体験活動に終始する授業」「地域の人などのお話をひたすら聞き続ける授業」「いじめや規則違反等の問題行動の解決を図るための授業」「道徳的な行為・行動のスキルを習得するための授業」「遠足や運動会など学校行事の事前指導の色合いの濃い授業」等がそれです。

こうした道徳の時間の特質に適合していない授業がこれから全国的に多くの学校で展開され、大きな混乱を起こすのではないかと心配します。

### 〈報告書の内容で気になる点 2〉

授業方法が、単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちである。(p10)

では「型にはまった」といえる程、授業を重ねているのでしょうか。工夫を重ねてきたのでしょうか。

型破りな授業は型を知らずにはできない、型を知らずにやるのを型なしの授業というのです。

道徳授業が、児童の内面の充実を図ることを疎かにして、もっぱら表に現れる行為・行動のみを追求するような指導は絶対にしてはなりません。それこそ「特別の教科 道徳」の命取りになりかねません。

道徳授業は「道徳的な価値の自覚を深め」「道徳的実践力を養う」ための授業です。このことから逸脱する指導法の工夫・改善などあつてよいわけがありません。

昭和三十三年の道徳の時間特設以来、目立たないが地道に続けられてきた優れた研究の集積が都小道研にはあります。これこそ貴重な教育遺産であり、教育界の宝であるといえましょう。今こそ、これらの研究成果にスポットライトを当てることが必要な時だと考えます。

次期学習指導要領の改訂から教科化時代の道徳が始まるうとしています。都小道研は新時代においてもゆるぎない自信と誇りをもって道徳教育の王道を歩み続けてほしいと切に希望します。

今年度の都小道研が田代敏博会長の下に会員一同一致結束して研究の充実と推進に邁進されますことを大いに期待しております。